

## 平成 22 年度センターの基本方針

総合教育センターは創設 2 年目を迎え、本年度も次の基本方針にもとづいて努力しますので、よろしくお願ひいたします。

## (1) 短期大学士力の内容と教育の質保証の在り方を明示していくための役割を確実に果たしていく

本学でつけていく短期大学士力の内容と教育の質保証の在り方を明示して社会的説明責任を果たしていくために、各学科・関係部署と連携しながら各専門部会とともに FD 活動の充実に努める。

## (2) 21 年度に見直しを行った教育活動について、充実した活動とするためのサポートと実践を行う

初年次教育について、センターが全学科を対象として実施するとともに、教養教育、入学前教育、教育改善に向けた評価・調査について、各学科・関係部署と連携して充実した活動となるよう努める。

## (3) 21 年度に引き続き、課題となっている教育活動についての見直しをすすめていく

初年次・導入教育、キャリア教育、リメディアル教育、リカレント教育等について、各学科・関係部署と連携して見直しをすすめ、方針と内容を定めて本学教育の質保証に向けた教育改善に努める。

## (4) 教育改善に取り組むことで、教育理念の具現化に向けた教育活動の基盤づくりを行う

教育方法の改善を中心として取り組んできた教育 GP のまとめを行うとともに本学の特色あるプログラムとして定着させ、また新たに各学科・関係部署と連携して学生支援を中心としたプログラムづくりのサポートに取り組む。

## 新年度のセンター組織

## □ センター (センター長：矢田貝真一)

・センター主事：茂木七香 ・センター事務：森山高明

## □ FD 専門部会 (部会長：矢田貝真一)

【役割】FDの推進と評価研究、教養教育・リメディアル教育・リカレント教育や他の学習や学習支援に関する取組  
他大学との連携に関する取組

・西川正晃(幼教) ・遠藤宏幸(音総) ・加納秀美(デ美)  
・畔地美紀(歯衛) / 専門委員：茂木七香、森山高明

## □ 教育GP 専門部会 (部会長：茂木七香)

【役割】教育GPなど質の高い教育の取組、地域の生涯学習に関する検討と推進、学生支援担当との連絡調整や支援

・役田 亨(幼教) ・遠藤宏幸(音総) ・加納秀美(デ美)  
・村越由季子(歯衛) / 専門委員：矢田貝真一、森山高明



## 平成 21 年度 の取組の総括

## □ FD 専門部会

## 1. おもな活動や実績

## (1) 平成 21 年度 FD 年度目標

「個々の教員で今までのFDへの取組を振り返り、見直しを行う」とした。

## (2) 授業と授業評価に関する意識調査

①学生対象：平成 21 年 7 月実施

②教員対象：平成 21 年 8 月実施

## (3) FD 研修会

平成 21 年 8 月 21 日(金)10:00~16:00 C 号館 3 階 多目的ホールにおいて、『授業改善の推進と教養教育の在り方』をテーマに実施

## (4) 授業交流会

平成 21 年 11 月 16 日(月)~12 月 18 日(金)の期間において、所属学科を問わず全開講科目を参観範囲とし、1 科目以上の参観を基に実施

## (5) 教育環境に関するアンケート

全学科全学年の学生を対象に、平成 21 年 12 月 1 日(火)~14 日(月)の期間において実施

## (6) 学生による授業評価

調査対象科目が学年で偏らないよう配慮し、非常勤教員担当科目、共通科目も対象に平成 22 年 1 月実施

## (7) 満足度調査

- ①学生対象：全学科の卒業年次生を対象に平成22年1月から3月14日(日)の卒業式を期限とし実施
- ②保護者対象：3月15日(月)を提出期限とし、卒業式案内の送付文と同封にて郵送

## 2. 成果

平成21年度から設けられた総合教育センターより命を受け、これまで自己点検・評価委員会専門部会で行ってきたFDに関する全ての項目を見直すこととなりました。その多くは各種アンケート調査における設問項目の見直しでした。これまで行ってきた調査実施期間に間に合わせるよう見直し・作成を幾度となく繰り返しましたが、後々と不足な点が現れ、どんどん調査時期が遅れる事態となりました。これについては比較対象が必要か否か、結果をどのように纏めるか、どのような考察を求めるかなど、はじめの筋立てが明確でなかったこと、文献資料・情報などの不足がこのような事態を招いたのではないかと反省します。

FD研修会については、「FDと授業改善についての報告」や「チームビルディングの体験」が大変好評でした。また、「学科を超えて教員同士が打ち解けて話せることはとても良い。」と言った点など、次年度も21年度と同様な教員一同で行うFD研修会を望む意見が最も多く、本年度の成果が得られました。

21年度は、各学科の教員の方々にFDに関するご意見を幾度と募りましたので、教員全体で見直しをする一歩として大変な成果があったと思っています。

## 3. 22年度への課題

現在、「教育環境に関するアンケート」の結果集計が行われており、データが揃いしだい纏めを行うこととなります。また、各調査におけるフィードバックの方法について、各学科での意見集約や、総合教育センターからの提案などを基に検討を重ねてまいりましたが明確な結論に至らず、今後の課題となります。

## 4. 部会長からの要望

先に述べましたように、今年度は「FDに関する全ての事項を見直す」が大きなテーマでした。見直しする中で色々な困難を来し、これまで前期に実施されたものができなくなり、また同期であっても時期が遅れることとなりました。例えば、「学生による授業評価」において、「昨年度の評価を得て、今年度は授業改善を行った。その成果を知るために昨年と同科目で評価を受けたかったが時期を逸した。」と言ったご意見を頂戴し、部会長として到らぬところと反省します。FDの活動は、次年度に向けて検討すると言うよ

り当年度に実施することを検討し、結果を出してフィードバックに向ける事項がほとんどとなります。従って、総合教育センターとの連携を密にして早期に年間計画を立て、実施に向ける重要性を深く感じました。

(21年度 FD専門部会長：岩田千鶴子)



## □ GP 専門部会

### 1. おもな活動や実績

#### (1) 教育GPの取組推進

- ・子育てサロンや子育て支援関連行事の活用についての各学科計画、連絡調整、実施、まとめ等
- ・食育に関する「学術シンポジウム」

#### (2) GPの内容紹介や取組の理解を深める活動

- ・GP通信第9号発行(5月29日)
- ・教育GP紹介チラシ原稿作成作業、西濃地域全域に新聞折込(9月12日)
- ・平成21年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」事例発表とポスターセッション配布資料、ポスター作成等の準備活動と発表(22年1月8日)
- ・「大学教育改革プログラム合同フォーラム」学内報告(22年1月15日教職員懇談会)
- ・鹿児島女子短期大学FD研修会における本学子育てサロンとGPの取組紹介(22年2月9日：役田部会長)

### 2. 成果

- ・本格的に全学でGPを授業と関連付けながら、取組を本格的に進めることができた。
- ・GPの取組の内容や意義について、広報活動や関連イベントの実施により理解を広めることができた。

### 3. 22年度への課題

- ・GPの取組の記録、各学科のデータの集約とそれを検証する体制の確立。
- ・全学的なGPへの取組の意識の向上。(教職員、学生)
- ・取組の成果を授業など学生にフィードバックしての活用する工夫。
- ・今後「子育て支援」以外の体験的学習などの取組推進。
- ・取組の評価も含め、学科の特性に応じた取組の推進。
- ・取組の総括と継続、発展させていく取組への接続。またFDや自己点検との関係の検討。

### 4. 部会長からの要望

- ・全学的なGPへの取組のまとめや協力が得られにく

い中で、活動を進めてゆくことに、負担感や困難さを感じる事が個人的には多かった。GPの取組は外に向けては大学の存在をアピールして理解してもらうことができ、内に向けては共通の取組をすることで大学の教育の質的向上も期待できるが、その一方で文部科学省をはじめ、他大学との関わりもしっかりしてゆくことも必要となるが、それを進めてゆくための形だけではない体制作りが必要ではないか。

(21年度 GP 専門部会長: 役田 亨)



## □ LS 専門部会

### 1. おもな活動や実績

LS部会では、この一年間で11回の会議を開いた。最初に、センター長から本学における教養教育についての考え方、方針について提案がある。大きな変更が出来ないことから教養科目の現状の科目を考え、「基礎教養」については8科目、「語学・体育」7科目、「社会人基礎」4科目に分類、科目名称を各教員に考えて貰うこととする。

「社会人基礎」の中で、学生の教養を高める「総合教養演習」の在り方と、「教養教育の捉え方」をセンター長がFD研修会で提案。いろいろな考え方の意見が出され、総合教養演習の実施の確認をし、教養教育の目的については各学科長に依頼をし、実施はその目的に基づいて作成することにした。

学長提案の「5分間トーク」については、全科の取り組みが大切とし、内容は「学生の教養を高め、広げるきっかけとなる話題を提供する。」と考え、5分間、毎回、専門外などの制限を設けず、学生の教養教育となることを各教員が考え、実行する。のちに、『教養ミニトーク』となる。

さらに学生のより深い理解と授業に真剣に取り組むことをめざした「質問コーナー」については、『Q&Aタイム』としてすべての授業において取り組むこととなった。

入学前課題について、これは初年次教育との関わりもあり大切な問題だが、21年度は各科で入学前課題を考え、本年度の入学前課題案として学長に提案した。その結果全科共通課題は「新聞を読む」とし、レポート提出、各科課題は各科の特徴を生かした課題となった。初年次教育では、教養、基礎学力が心配される中、出来ない学生の対応(リメディアル教育との関わり)、又、就職との関わりもありレベルアップは必然で今後の問題としても重要なことと認識する。

基礎教養テストについては、今回は今年のテストを参考

に時間配分を考えたものを提案する。このテストをまとめるには時間を要すると思われ、学長の「同じテストでの経過が知りたい。」との意見も考え、もう一度考えることが必要と思える。

### 2. 成果

教養教育の中の「総合教養演習」が形を見せ、センター長のいろいろな提案、教務との関わりの中、歩きだしたことと思う。いろいろな問題、提案などこれからの問題はあるとは思いますが、一つ一つやっていくことが大切と思える。

### 3. 22年度への課題

21年度の検証、また、本年度関われなかったリメディアル教育、リカレント教育、生涯学習について考え、実施案を探る。

入学した学生に、教養教育を考え、学生生活、就職、社会生活、個人活動する為の力となるものが身につくように、緊張、感動を持って考えたい。

### 4. 部会長からの要望

22年度は教育センター立ち上げ2年目ということで、より大垣女子短期大学の現状を踏まえ、大垣女子短大の教育センターとしてどのような活動をするのかを考えることが必要と思える。(21年度 LS 専門部会長: 加納 秀美)

## 本学教育の誇れるところ 改善すべきところ ③

◇ 本学には職業に直結する学科と芸術系の学科があり、各科で専門性の高い授業が行われている。

◇ しかし近接領域では、科目名や担当教員の専門分野が異なる場合でも、同じような内容を授業内で扱うということが時として起こり、学生の学習意欲をそぐこととなる。

◇ 一人一人の学生が専門分野に関する知識と技能を過不足なく身に付けることができよう、教員同士が授業のねらいやシラバスを交換し、ともに検討できる場を作り、授業内容を二元的に把握できるように工夫が必要である。



(N)